

**Summary of the work to date of the
inter-sessional working group on compliance**
遵守に関する休会期間中の作業部会のこれまでの作業の概略

March 2010
2010年3月

Introduction

序文

The 16th Annual Meeting of the Commission for the Conservation of Southern Bluefin Tuna (CCSBT) adopted the recommendation of the Compliance Committee that an inter-sessional working group be formed to undertake a compliance risk assessment. The purpose of the risk assessment was to identify how well existing measures are contributing to monitoring and management of the southern bluefin tuna (SBT) fishery; and whether there are areas of potential improvement. It was agreed that New Zealand would coordinate the work of the inter-sessional working group, and this paper provides a brief update on the group's progress to date.

みなみまぐろ保存委員会（CCSBT）第16回年次会合は、遵守に関するリスク評価を実施するための休会期間中の作業部会を設置すべきとする遵守委員会の勧告を採択した。このリスク評価の目的は、既存の措置がみなみまぐろ（SBT）漁業の監視及び管理にどの程度貢献しているか、そして改善の余地がある分野があるかどうかを特定することであった。ニュージーランドがこの休会期間中の作業部会の作業を調整することが合意されたため、ここでこの部会の進捗状況について簡潔に紹介する。

Background

背景

The working group is tasked with working inter-sessionally and presenting back to the compliance committee meeting in 2010, including on priorities for action and possible draft resolutions for consideration by the compliance committee, as outlined below:

同作業部会は、休会期間中に作業を行い、それを2010年の遵守委員会に報告すべきことが課せられている。これには、下記のとおり、遵守委員会において検討されるための優先的な行動及びあり得べき決議案が含まれている。

第4回遵守委員会会合報告書（抄）

議題項目5. 将来の作業及びその他の措置

26. 各々のメンバーが行う漁獲量の検証レベルには相当な差異があること、そして、いくつかのメンバーは旗国が行う漁獲量の検証レベルを適切なものにすることがCCSBTにとって最も優先度の高い遵守事項であると認識していることが、再度留意された。

27. 遵守委員会は、特にSBT資源が低い状態にあることを踏まえ、CCSBTの保存管理措置の遵守を確保する必要性に関する会合中の議論に留意した。これに関連して、CCは、既存の措置が漁業のモニタリング及び管理にどれだけ貢献しているか、そしてまた改善可能な漁業のモニタリング及び管理の分野があるかどうか、について特定するためのリスク評価を実施する価値があることに合意した。CCは、このリスク評価に着手するために、休会期間中の作業部会を立ち上げ、ニュージーランドの文書（CCSBT-CC/0910/09）並びにパフォーマンス・レビュー作業部会及び独立評価者の報告書をこの作業の基礎として使用すべきことを勧告した。現在、FAOで実施中の旗国のパフォーマンスに関する協議についても、関連するインプットとして留意された。同作業部会は、2010年のCC会合に報告するものとし、これにはCCによって検討されるための優先的な行動及びあり得べき決議案が含まれる。

28. CCは、当該部会の調整役をCCSBTで合意すべき旨勧告した。メンバー及びCNMは、2009年12月1日までに当該部会への参加者を通知することに合意した。CCは、同部会は必要に応じて戦略・漁業管理作業部会と連携しつつ、電子通信を利用して休会期間中にその作業に取り組むべきであると勧告した。CCは、この作業は、次回の遵守委員会会合までに自国のモニタリング及び検証制度を改善するためにメンバー及びCNMが取り組んでいる措置に追加されるものであることを指摘した。

* CCSBT16は、ニュージーランドが同部会の作業の調整役となることに合意した（CCSBT16報告書 パラグラフ22）。

Process プロセス

The risk assessment process to be used includes the following key steps:

リスク評価のプロセスには、以下の主要な段階が含まれる。

1. Characterise the global fishery for southern bluefin tuna;
みなみまぐろを対象とした世界的な漁業の特徴を明らかにする。
2. Compare with desired outcomes and identify key gaps;
望ましい結果と比較し、主要なギャップを特定する。
3. Identify priority areas and possible solutions
優先的に取り組むべき事項及び解決案を特定する。

Step One — Characterise the global fishery for southern bluefin tuna

ステップ1 — みなみまぐろを対象とした世界的な漁業の特徴を明らかにする

Members of the inter-sessional working group identified that much existing material could be used in the characterisation of the global fishery, including national reports, the draft strategic

plan, and the report of the performance review working group. Consequently, the coordinator agreed to summarise existing material relevant to characterising the fishery from a compliance perspective (drawing also on CCSBT-CC/0910/04 rev4, in which the Secretariat summarised member and cooperating non-member compliance with CCSBT measures for the period 1 July 2008 to 30 June 2009). This summary would be supplemented by members providing additional information on basic aspects of the legal, institutional, and judicial frameworks that each member has in place (based on a check list to be circulated by the coordinator).

休会期間中の作業部会のメンバーは、この世界的な漁業の特徴を明らかにする上で、国別報告書、戦略計画案及びパフォーマンスレビュー作業部会報告書を含む既存の多くの資料を利用することができると思った。したがって、調整役は、遵守の見地からこの漁業の特徴を明らかにすることに関連する既存の資料をとりまとめることとした（2008年7月1日から2009年6月30日までの期間におけるメンバー及び協力的非加盟国のCCSBT措置の遵守に関して、事務局がまとめたCCSBT-CC/0910/04rev4も引用する）。このとりまとめは、（調整役から回章予定のチェックリストに基づいて）各メンバーが実施している法的、制度的及び司法的な枠組みの基本的な事項に関する追加的な情報の提供によって補足されるであろう。

Step Two — Compare with desired outcomes and identify key gaps

ステップ2 — 望ましい結果と比較し、主要なギャップを特定する。

The second step identified was to draw on the characterisation, along with key objectives and management measures for the fishery (from the Convention and agreed conservation and management measures), to identify key potential risks. Such risks could include risks from non-members (e.g. fishing and/or fishery support services or port or market state actions); risks from inadequate MCS measures being in place; and risks from incomplete implementation of conservation and management measures by members. Some members of the group considered that the latter area was the main area in which compliance risks were likely for SBT fisheries.

2つめの段階では、主要な潜在的リスクを特定するため、（条約及び合意された保存管理措置に基づき）同漁業に関する主たる目的及び管理措置とともにこの漁業の特徴について描写することである。このようなリスクは、非加盟国を由来とするリスク（例えば、漁業及び/若しくは漁業関連サービス、又は寄港国若しくは市場国による行動）、不適切なMCS措置を由来とするリスク、及びメンバーの保存管理措置の不十分な履行を由来とするリスクも含まれることとなるだろう。この部会の一部のメンバーは、後段の分野がSBT漁業に関する遵守上のリスクの主たる分野になるだろうと考えている。

Step Three—Identify priority areas and possible solutions

ステップ3 – 優先的に取り組むべき事項及び解決案を特定する

Based on the risk assessment, priority areas and possible solutions would then be identified. Examples of future work that might be identified include further support for existing measures, as well as additional measures if required (based on assessment of likelihood and severity of identified compliance risks). Options for on-going assessment of compliance risks would also be identified. The working group noted that the characterisation and risk assessment outlined above might prove to be a substantial analysis in its own right. However, the compliance committee report outlines that this group will report back to the compliance committee in 2010, including on priorities for action and possible draft resolutions for consideration by the compliance committee.

そして次に、リスク評価に基づき、優先的に取り組むべき事項及び解決案が特定されるであろう。特定される可能性のある今後の作業には、既存の措置のさらなる支援、及び（特定された遵守に関するリスクの可能性及び深刻さの評価に基づき）必要な場合には措置の追加が含まれる。遵守に関するリスクの評価の継続という選択肢も特定されるであろう。同作業部会は、上述の特徴付け及びリスク評価は、それ自体が実質的な分析となることが判明するかもしれないことに留意した。しかしながら、遵守委員会報告書では、このグループが、遵守委員会で検討するための優先的な行動及びあり得べき決議案を含め、2010年の遵守委員会に報告することが記載されている。

Conclusion

まとめ

The work of the inter-sessional working group will shortly shift from a focus on characterising the global fishery to the next stage of analysis. The discussions at the Strategy and Fisheries Management Working Group, particularly on members' action plans, will form an important guide for the future work of the group.

休会期間中の作業部会の作業は、この世界的な漁業の特徴を明らかにすることに焦点を当てていたところから、まもなく次の分析の段階に移行するだろう。戦略・漁業管理作業部会での議論、特にメンバーの行動計画が、この部会の今後の作業の重要な指針を形成することになるだろう。

事務局による翻訳